

富山環境整備

廃プラでパレット量産

物流倉庫向け 通常の半額程度

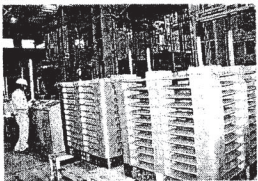
廃プラスチックの回収・リサイクルを手がける富山環境整備（富山市、松浦英樹社長）は物流倉庫などで使うパレットの量産を始めた。材料をすべて再生プラスチックとすることで、価格を通常品の半額程度に抑えられ

るといふ。再生パレットメーカーとして国内最大規模の年七十万枚を生産し、将来は年百万枚に引き上げる計画だ。

か、今後、中国などアジア向けの輸出も視野に入られて市場を開拓する。容器包装リサイクル法に基づく同社のプラスチック受託処理量は五万三千ト（二〇〇八年度）と全国で最大。

プラスチックを回収・分別後、破碎し、独自製法で粒状に加工する。これをプレス成型機で圧縮、パレットを製造する。一般に使われる射出成型に比べ消費エネルギーを抑えられ、コスト面で有利という。

圧力三千トのプレス成型機五台のほか、千トのプレス機一台、五百ト機二機をそろえ、パレットのほか、OAフロア対応の床材、シートなども生産する。全国に持つ代理店網を通じて販売するほ



廃プラスチックを破碎、加圧・成型し、パレットを量産する（富山市の富山環境整備）

廃プラ焼却熱を利用した発電プラント（二千